

佛教大学客員研究員 研究成果報告書

研究員氏名	張 叢嶸
招 聘 期 間	令和7年7月1日 ～ 令和7年9月2日
研 究 課 題	中国現代作家の日本文化思想受容と創作影響に関する研究
研究成果報告	1.何をどこまで明らかにしたか 佛教大学文学部で李冬木教授と共同研究を行った。 研究は主に魯迅の日本留学期の経歴と初期思想の形成を展開した。この分野も李冬木教授の研究の重点であり、李先生の課題は明治思想界が魯迅の初期思想の形成に与えた影響、特に魯迅の個性主義、人道主義などの重要な思想形成に関する日本の動因である。この研究は、魯迅研究の方法の調整をもたらし、国内外の学界に重大な影響を与えた。協力研究期間中、私と李先生は、魯迅の個人の留学期に様々な具体的で微細な思想領域、留学生集団の文化体験と魯迅の個人の選択などの方面において新たな学術発見と研究成果について新たな学術発見と研究成果について持続的な交流と討論を展開した。
	2.今後の課題 今後、私は引き続き李冬木教授の「周樹人と明治日本」という研究課題に注目し、中国学界における魯迅研究に関連する分野の研究を参照、比較、対話し、そして李冬木教授の研究成果に基づいて、中国が長期にわたって形成された魯迅に関する通説と認識を矯正、調整し、それによって魯迅早期思想に関する新しい史料系譜と解釈学のパラダイムを形成しようとする。
	3.社会への研究成果の発信 吉林大学中文系は、魯迅研究において長い歴史と伝統を持ち、中国文学を専攻する院生、学部生のための「中日近現代文学関係」「日本の魯迅研究」などの課程を開設している。研究の新たな成果は、当院の中国現代文学専門のカリキュラムを整備、発展させる上で重要な意義がある。

【学務課処理欄】

報告書受理日	令和 7 年 9 月 23 日
--------	-----------------

佛教大学客員研究員 研究成果報告書

研究員氏名	崔 穎
招 聘 期 間	令和7年7月10日 ～ 令和7年8月17日
研 究 課 題	魯迅の思想形成における留学経験の影響 —日本と中国古典文学を中心に—
研究成果報告	1.何をどこまで明らかにしたか 研究期間中、李冬木教授のご指導のもと、明治三十年代に日本で出版された「屈原」および「支那文学」に関する書籍三十種を収集し、予備的分類を実施した。これらの書籍には、屈原を論じた専著、文学史・批評書、教科書・読本、文学作品における屈原像などが含まれる。また、それぞれの書籍について刊行時期、著者の背景、魯迅が接する可能性のある経路を初歩的に整理し、今後の研究課題を明確化した。 資料収集に加え、大学図書館および文学部資料室を利用して、『越境——魯迅之誕生』『魯迅全集』『魯迅与日本文学』『魯迅与日本人』『魯迅与中日文化交流』などの著作を精読し、魯迅思想の形成、日本留学時代の文化的経験、ならびに中日文学交流の経路についての理解を一層深めた。とりわけ、魯迅思想と日本近代における屈原観との精神的関連について、以下の三つの予備的探究経路を確認した。 (1)文学史・批評書を通じて受容された屈原人物像 (2)教科書・読本における古典化・教育化された屈原像 (3)文芸創作や評論において批判精神や人格の象徴として提示された屈原像
	2.今後の課題 (1) 資料の精読と再分類 精読を通じて、資料を「屈原の伝記・人物論」「文学史・文学批評」「教科書・読本類」「文学創作における屈原像」「その他」の五類に細分し、それぞれの特徴と主旨を分析する。 (2) 出版および流通経路に関する研究 書籍の出版地、印刷部数、発行元、東京や仙台の主要書店への流通可能性を調査し、魯迅の日記や所蔵書籍などと照合することで、魯迅がそれらに接した可能性を推定する。 (3) 主旨と類型の分析 各資料における屈原観を分析し、その思想的傾向を明らかにした上で、魯迅の思想表現と比較検討する。 (4) 異文化影響の体系的研究 日本近代の屈原観が魯迅の初期思想および文学創作にどのような影響を与え、中国伝統における屈原観といかに融合し得たのかを検討する。 (5) 研究成果の論文化 得られた成果を整理し、学術論文としてまとめる。

	3.社会への研究成果の発信 本研究は、魯迅思想の形成に関する理解を深めるとともに、彼の日本留学時代における読書体験が、その批判精神や文学観の形成に果たした役割を明らかにする一助となった。さらに、中日文学交流史研究における具体的事例を提示した点でも意義を有する。 より広い視野から見ると、本課題は、東アジアの知識人が伝統と近代、民族と世界という二重の課題に直面した際、いかに思想を再構築していったのかという経路を解明し、現代における異文化交流、文化翻訳、思想移動のメカニズムを考察するための歴史的参照枠となり得る。また、魯迅思想における日本近代の屈原観の影響を遡及的に検証することは、古典文学が異文化伝播の過程でいかに再解釈・再利用されるのかを明らかにする上でも有益であり、魯迅研究および比較文学研究の視野を広げることができる。
--	--

【学務課処理欄】

報告書受理日	令和 7 年 8 月 18 日
--------	-----------------